

李朝實錄 第三十七冊

顯宗實錄

學習院東洋文化研究所刊

李朝實錄第卅七冊奥付

昭和三十八年十一月二十五日

東京都港區芝南佐久間町一ノ五三

笠井出版印刷社印刷

東京都豊島區目白町一ノ一〇五七

編纂刊行責任者 末松保和
學習院東洋文化研究所刊行

顯宗実録解説

〔一〕李朝の第十八代の王顯宗は、諱は柵、字は景直、孝宗の第一男、仁祖十九年辛巳（一六四一）二月四日己酉、藩館（清國の首都瀋陽）に生れた。二十二年甲申、還国、二十七年己丑、王世孫に封ぜられ、孝宗二年辛卯、王世子に進封、十年己亥（一六五九）五月九日己巳、昌徳宮に即位、在位十五年、甲寅（一六七四）八月十八日己酉に薨じた、春秋三十四。母は仁宣王后張氏（徳永、張維の女）、妃は明聖王后金氏（清風、金佑の女）である。

〔二〕この王代の実録は肅宗元年（一六七五）に、編修開始、三年（一六七七）九月に、印刷を完了した。二十一卷二十二冊。附録一卷一冊。

〔三〕附録は、行状・哀冊文・謚冊文・誌文から成り、別冊とすること、前の孝宗実録の例に同じい。

〔四〕この実録の現存するものは、江華本・太白山本・赤裳山本の三部で、いずれも同一の活字印刷本である。板匡、縱四一・七糸、横二六・三糸、毎半葉十五行、行三十字。

〔五〕昭和六年（一九三一）の京城帝國大學法文学部景印本は、太白山本に拠り、それを約二分の一に縮刷したものである。但し製冊は旧のまま和装二十三冊とした。

〔六〕いまここに刊行する普及版李朝実録第三十七冊の顯宗実録は、財團法人東洋文庫所蔵の京城大学景印本に拠り、それをさらに縮写して、原本の四頁を一頁におさめたものである。

昭和三十八年十月

學習院東洋文化研究所

末松

保和

顯宗實錄目錄

卷一

己亥孝宗十一年(一六五九) 西曆五月(辛酉朔).....一
己亥即位年.....四

六月庚寅朔.....六

七月庚申朔.....五

八月己丑朔.....八

九月己未朔.....十

十月戊子朔.....十一

十一月戊午朔.....十二

十二月丁亥朔.....三

卷二

庚子元年(一六六〇) 正月丁巳朔.....三〇

二月丙戌朔.....三一

三月丙辰朔.....三二

四月乙酉朔.....三三

五月乙卯朔.....三五

六月甲申朔.....三七

卷三

庚子元年.....三九

卷四

辛丑二年

(一六六二) 正月(辛亥朔)

癸

二月(辛巳朔)

癸

三月庚戌朔

癸

四月庚辰朔

癸

五月己酉朔

癸

六月戊寅朔

癸

七月戊申朔

癸

閏七月戊寅朔

癸

八月丁未朔

癸

九月丁丑朔

癸

十月丁未朔

癸

十一月丁丑朔

癸

七月甲寅朔.....癸

八月甲申朔.....癸

九月癸丑朔.....癸

十月癸未朔.....癸

十一月壬子朔.....癸

十二月壬午朔.....癸

卷五

壬寅三年

(一六六一) 正月乙亥朔

十二月丙午朔

二月(乙巳朔)

二六

三月甲戌朔

二七

四月甲辰朔

二八

五月(癸酉朔)

二九

六月壬寅朔

三〇

七月壬申朔

三一

八月辛丑朔

三二

九月辛未朔

三三

十月辛丑朔

三四

十一月(辛未朔)

三五

十二月庚子朔

三六

癸卯四年

(一六六三) 正月庚午朔

三七

二月庚子朔

三八

三月己巳朔

三九

四月戊戌朔

四〇

五月戊辰朔

四一

六月丁酉朔.....[六六]

七月丙寅朔.....[七七]

八月(丙申朔).....[五五]

九月乙丑朔.....[五五]

十月乙未朔.....[五五]

十一月乙丑朔.....[五五]

十二月甲午朔.....[五五]

甲辰五年
(一六六四) 正月甲子朔.....[九九]

甲辰五年
二月甲午朔.....[九九]

三月(癸亥朔).....[九九]

四月癸巳朔.....[九九]

五月壬戌朔.....[九九]

六月壬辰朔.....[九九]

閏六月辛酉朔.....[九九]

七月庚寅朔.....[九九]

八月(庚申朔).....[九九]

九月(己丑朔).....[九九]

十月己未朔.....[九九]

卷七

癸卯四年

卷八

卷九

甲辰五年

甲辰五年
卷九

十一月戊子朔.....三

十二月戊午朔.....二

乙巳六年 (一六六五) 正月戊子朔.....一
二月戊午朔.....一
三月丁亥朔.....一
四月丁巳朔.....一
五月丙戌朔.....一
六月丙辰朔.....一
七月乙酉朔.....一
八月甲寅朔.....一
九月甲申朔.....一
十月癸丑朔.....一
十一月癸未朔.....一
十二月壬子朔.....一

卷十
乙巳六年

三月丁亥朔.....一
四月丁巳朔.....一
五月丙戌朔.....一
六月丙辰朔.....一
七月乙酉朔.....一
八月甲寅朔.....一
九月甲申朔.....一
十月癸丑朔.....一
十一月癸未朔.....一
十二月壬子朔.....一

卷十一
乙巳六年

三月丁亥朔.....一
四月丁巳朔.....一
五月丙戌朔.....一
六月丙辰朔.....一
七月乙酉朔.....一
八月甲寅朔.....一
九月甲申朔.....一
十月癸丑朔.....一
十一月癸未朔.....一
十二月壬子朔.....一

卷十二
丙午七年

三月(辛巳朔).....一
四月辛亥朔.....一

丙午七年 (一六六六) 正月壬午朔.....一
二月癸丑朔^(壬子).....一
三月(辛巳朔).....一
四月辛亥朔.....一

卷十三
丙午七年

六

五月壬午朔	三十六
六月庚戌朔	三十九
七月庚辰朔	四十
八月己酉朔	四十一
九月戊寅朔	四十二
十月戊申朔	四十三
十一月丁丑朔	四十八
十二月丁未朔	三三
丁未八年 (一六六七) 正月丙子朔	三三
二月丙午朔	三三
三月乙亥朔	三三
四月乙巳朔	三三
閏四月乙亥朔	三三
五月甲辰朔	三三
六月甲戌朔	三三
七月癸卯朔	三三
八月癸酉朔	三三
九月壬寅朔	三三

卷十四

丁未八年

五月壬寅朔	三三
六月甲戌朔	三三
七月癸卯朔	三三
八月癸酉朔	三三
九月壬寅朔	三三

十月癸酉朔.....
十一月辛丑朔.....
十二月辛未朔.....

三五

三七

三九

三八

戊申九年
(一六六八) 正月庚子朔.....
二月庚午朔.....
三月己亥朔.....
四月(己巳朔).....
五月戊戌朔.....
六月戊辰朔.....
七月戊戌朔.....
八月丁卯朔.....
九月丁酉朔.....
十月丙寅朔.....
十一月丙申朔.....
十二月乙丑朔.....

三五

三七

三九

三八

卷十五

戊申九年

卷十六 己酉十年 (一六六九) 正月乙未朔.....
二月(甲子朔).....
三月甲午朔.....
四八

四月癸亥朔..... 四三

五月癸巳朔..... 四七

六月壬戌朔..... 四一

七月壬辰朔..... 四五

八月辛酉朔..... 四九

九月辛卯朔..... 五三

十月辛酉朔..... 五七

十一月庚寅朔..... 五二

十二月庚申朔..... 五五

卷十八 庚戌十一年（一六七〇）正月己丑朔..... 五五

二月己未朔..... 五〇

閏二月戊子朔..... 五一

三月戊午朔..... 五二

四月丁亥朔..... 五三

五月丙辰朔..... 五六

六月丙戌朔..... 五七

七月乙卯朔..... 五九

八月乙酉朔..... 五三

卷十七 己酉十年

九月乙卯朔.....癸亥

十月乙酉朔.....癸酉

十一月甲寅朔.....癸九

十二月甲申朔.....癸三

卷十九

辛亥十二年

(一六七一) 正月癸丑朔.....

二月癸未朔.....癸八

三月壬子朔.....癸六

四月壬午朔.....癸一

五月辛亥朔.....癸四

六月庚辰朔.....癸六

七月庚戌朔.....癸一

八月己卯朔.....癸三

九月己酉朔.....癸三

十月(己卯朔).....癸八

十一月戊申朔.....癸一

十二月戊寅朔.....癸三

壬子十三年

(一六七二) 正月戊申朔.....癸七

二月丁丑朔.....癸九

卷二十

辛亥十二年

三月丁未朔	至二
四月丙子朔	吾三
五月丙午朔	吾六
六月乙亥朔	吾八
七月乙巳朔 <small>(甲辰)</small>	吾十
閏七月甲戌朔	吾十二
八月癸卯朔	吾十四
九月癸酉朔	吾十六
十月壬寅朔	吾十八
十一月壬申朔	吾十九
十二月壬寅朔	吾二十
卷二十一 癸丑十四年 (一六七三) 正月壬申朔	吾一
二月辛丑朔	吾二
三月辛未朔	吾四
四月庚子朔	吾六
五月庚午朔	吾八
六月(己亥朔)	吾九
七月戊辰朔	吾一

八月(戊戌朔).....	五 酉
九月(丁卯朔).....	四 亥
十月丁酉朔.....	三 戌
十一月丙寅朔.....	二 酉
十二月丙申朔.....	一 午
卷二十二 甲寅十五年 (一六七四) 正月丙寅朔.....	癸 未
二月丙申朔.....	壬 午
三月乙丑朔.....	癸 巳
四月乙未朔.....	壬 辰
五月甲子朔.....	癸 卯
六月(甲午朔).....	壬 寅
七月癸亥朔.....	癸 巳
八月壬辰朔.....	壬 午

行 状

哀冊文.....	一 一
謚冊文.....	一 一
誌 文.....	一 一

顯宗純文肅武敬仁彰孝大王實錄卷之一
己亥考宗大正十六年五月甲子初日

孝宗宣文華武聖顯仁大王昇選于昌德宮大造殿○午刻屬嬪令史官鄭重微書大漸二字出示于外用已丑故事也時大臣及吏曹判書宋時烈等以儀禮為位哭在於塾下欲令百官於製後舉哀承首愈染以為不可遂於外庭先天臨無拜○以左議政沈之源為撫諭使具仁堅為守陵官尋以宗室平雲君代仁堅若無王子也○前正郎張善徵前正鄭善興佐郎呂聖齊幼學韓牛相並以內音召入與駙馬洪得其掌察製絲諸事○下御醫申可貴朴後聖趙徵奎等六人于禁府○以領議政鄭太和為院相時禮曹天翊在外太和令同知中樞府事尹順之代察察判仍提舉長生殿事○是夕

大雨○乙丑晴王世子在大造殿廬下廬次○禮曹判書尹絳奉判尹順之講尹錫等達五禮儀於礮殿只有朝夕上食無晝上食及祭禮而戊申勝錄則並有上食祭禮丙寅勝錄則只設晝祭禮己丑亦從丙寅只設晝祭禮今亦依己丑只設晝祭禮○禮曹又達慈懿王大妃為大行大王喪服制不載於五禮儀或云當服三年或云當服未有可以依據者請議于大臣

己亥

顯宗大王實錄卷之一

一

王世子下令曰兩贊善一禮問議領敦寧府事李景興領議政鄭太和延陽府院君李時白左議政沈之源原平府院君元斗杓完南府院君李厚源以為古禮雖不能曉解故之時王之制似當為春年之服尹曾判書宋時烈右察贊宋浚吉以為古今禮律既有異同帝王之制尤難輕議而諸大臣既以時王之制為議臣等不敢更容他說王世子下令曰依議初大喪出而禮議者各持其說或有言王大妃於大行喪當服次長子三年者或有言當服為君新之斬者主為君斬者前持平尹鑄之說也延陽府院君李時白聞之即賄書子領議政鄭太和太和遂問于宋時烈曰今議慈懿服制當如何時烈曰仁祖言之昭顯之子是正而不禮也大行大王是禮而不正也太和大驚擗手止之曰禮雖如此昭顯令有子誰敢以此說為議禮之證乎禮經奧義吾固昧昧國朝以來父於子喪皆服幕年嘗聞之矣吾意欲用國制耳時烈

曰大明律服制錄亦載此制今日遵用亦何不可太和遂取故國制父母為子不分長次皆服幕者定為慈懿王大妃為大行大王服幕年○禮曹又

達儲君承統國家大禮請依己丑故事擇吉告于宗廟永寧殿社稷○大司憲李應蓍大司諫李尚真司諫李俊考寧令黃備許穆持平李坤獻納鄭麟卿等請克遵朱子君臣服議製古喪服以臨之訓以正後代服制之失禮曹

請漢子大臣儒臣李景興以為先賢臣李湜之為此議也故相臣朴淳以禮官持難而不之改也己丑金集之據此禮也故相臣金尚憲亦有所持難臣非以

古禮為不可蓋慮有參差不齊之患也鄭太和以為累朝遵行之制有難違

變臣於己丑既陳愚見今亦與前何異李時白沈之源元斗杓亦皆以為難行

而宋時烈則以為臣子於君父既沒之後無復自致其誠者不過盡其情文稱

其義物使無餘憾而已子朱子密酌古今損益禮令以為千古不易之定制臣

以為可行無疑而且無所難也宋浚吉則以為常以朱子說為必可行之定論

備復行之於今日皇勝幸甚王世子遂令更加商議于大臣○時當盛暑掌

祭冰者皆以為憂院相鄭太和招中使林友問謂曰禮三日而乃缺小缺固當

在明然若有難處之事不可不先時為之須頃入奉審可也友問曰午刻與晚

己亥

顯宗大王實錄卷之一

二

間不同製衣樹漸似繁窄矣日向晡友問復出曰今日奉審已六次午後則別無所加矣太和曰須明日早紹遂定以甲時寅卯間也○丙寅王世子在大造殿廬下廬次○甲時小紹將錄大臣三司以下俱進諸閣門請入如製時王世子下問此事載五禮儀否已而令諸臣毋再三力請乃許諸臣俱以次哭而入洪得箕鄭善興呂聖齊及內侍二人方執紹衾已用衣樹三四製矣錄既畢並垂然不結鄭太和特出謂執事者曰橫絰則出後結之宋時烈曰禮有之大錄時當結之宋浚吉曰時方熱不可全然不結矣諸臣哭而出○王世子下令曰小紹後不結以絰前所未見之事且當盛暑尤增困極大臣其熟譏以達院相鄭太和曰當初不結者即宋時烈之所定也更與相識則時烈以為不結以絰者蓋孝子不忍死其親之意也今者三日已過浮氣必不更加而徒譏以為當結則臣亦不敢強執宋浚吉以為禮則然矣但盛熱之時不可無處之道間闇識禮之家當結之際只留一二絰布以存愛禮之意臣反覆思之既不可全然不結姑存一二絰布觀勢盡結則庶不悖於禮意矣○禮曹以群臣經杖之議更問于大臣李景興鄭太和仍執前議李厚源以為臣非以古禮為不當復但祖宗朝所不行者倉卒之際既未可猝行即今士論雖如此

凡人之見莫不為難抑恐其間亦有節節妨碍難道之事餘人亦皆從景奧等議遂令從大臣議施行○未刻中使林友問出言于院相鄭太和曰長生殿梓官尺度不足時不可用矣太和與禮曹判書尹絳史曹判書宋時烈右叅贊宋浚吉共招鄭善興問敘時垂絳不結者至今不結耶抑农樹過辱耶善興對曰絳布綢已繫束綵衣至當角最廣處亦不過厚然梓官廣不足幾二寸許長亦不足諸公須坐請舉審可矣太和遂與搆謾使沈之據請借入舉審尹絳宋時烈宋浚吉金善恆亦隨入進至敘床下以梓官尺度度之長廣果皆不足諸臣相顧失色同知所措退出廳下聚言商議乃要傳命中官達于王世子蘆次請搜得廣板于城中及江上終不得其中用者太和謂時烈浚吉曰廣板不得事急矣如非附板更無他策愈曰然太和遂更舉于王世子曰廣板終不得此誠臣等之罪也臣聞近來士夫家亦多有去其邊白點附而用之者請取黃屬上品點附造成而用之王世子始不許曰附板雖間隔匹夫之發猶且不為今安得為此言耶太和等更賜其萬無可得之狀乃下令曰其亟擇匠手趁今夜治梓內面及七星板須加添可也臣謹按梓官制度定南國初選用垂三百年無弊而今乃人度不足點板以用斯豈宜非當盛暑不捨

廣也列聖之所遵行五禮儀之所具載此實古今不易之典禮誥曾之不為專請只擇時日者亦是有司常事非有撰試之意也答曰嗣位於成服之日者非人子情禮所敢忍為鄉等又何忍不少懼於意乎其亟令禮官更議○丁卯王世子在大造殿廳下慶次○鄭太和趙時烈等復達曰伏旱下令臣等聚首痛哭不忍舉禮臣等非不知孝思同極至情難抑第念王者繼統之禮至嚴且重古先哲王廟不致抑至痛即踐大寶良以天位不可輕曠私情不容自伸也臣等承不敢特此下令分付該曹伏願抑情諱哀以遵先王已行之禮答曰禮雖為大情不可廢鄉等不願為同極之禮乎不可強抑情理而為此舉宜遵前令令禮官更議兩司合達玉堂上劄請深思宗社付託之重仰法祖宗已行之禮答曰孤之情懷已諭於院相美更勿煩瀆○院相鄭太和與搆謾使沈之據請曹判書尹絳等達新梓官兩板付接湧合無大第念其重莫大之事少失兩宣後悔靡及亦不無及此時更議善處之遣除已舉審諸臣外請小缺時入侍原任大臣以下並令更為舉審王世子許之李景奧李時白元丰均李應芳趙時烈李尚真元萬石具挺垣李殷相會茶金萬均李伯麟鄭重徵遂入舉審訖招承旨達曰臣等即入舉審事無未盡不敢更

容他說矣○長生殿梓官成內卷三次○戊辰王世子在大造殿廳下蘆次○己時舉移大行敘床於宣政殿○午時大敘領教寧府事李景奧領議政鄭太和延陽府院君李時白左議政沈之源原平府院君元斗杓光南府院君李厚源禮曹判書尹絳史曹判書宋時烈右叅贊宋浚吉大司憲李應芳行大司諫李尚真右丞金善恆校理金萬基注書李伯麟記事官鄭重徵等俱入傳如小敘儀舉安大行尸床於殿東北隅設禮官殿中近壯設御櫈處也梓官在尸床櫈宮之間敘床陳衣食在櫈宮南銘旌扇蓋及滿頂在櫈宮外西南帷帳用紬色白綢絕殿半洪得算鄭善興呂聖濟及內侍二人掌敘事尹絳執笏記如儀敘取通天冠赤褐內子梓官絳問主及鳳王亦當入否時烈以為不可太和顧問善興曰已丑則如何曰不用太和而曰然則當入玄宮矣更選擴大臣以下皆痛哭而出○領議政鄭太和率百官達請亟許禮官之請一達○祖宗舊典客曰每聞此言五內崩禮不可以不遵情皇列聖亦莫不然此誠曾連舊例舉行者則無可問之事矣○答曰此何時此何舉擇不為明稟直擇日時有若探試者然此子不知之事也○院相鄭太和與都承旨趙時烈等達曰自古繼序之君必於成服嗣位以大寶之位不可一日